読みたい聴きたい

福岡市内の書店『ブックスキューブリック』のオーナー・大井実さんに、
毎回テーマに沿った本と音楽を紹介していただきます。
ジャンルを超えて楽しめる作品にぜひ、触れてみてください。

撮影／スタジオパッション

ココロに、ウツクシク

（ 哀愁が漂う作品 ）

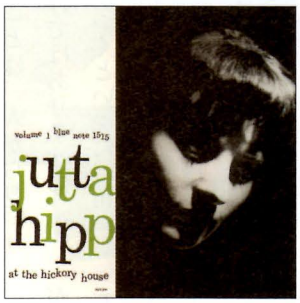
人生には光もあれば、影もある。
その様を見事に描いた名作です。

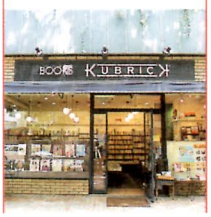
没後ますます名声の高まっている須賀敦子のエッセイは、読み手を作品の中にぐっと引きこんで、あたかも自分がその中の登場人物を昔から知っているような気持ちになる不思議な魅力を持っています。代表作とも言える『コルシア書店の仲間たち』もそのひとつ。イタリアのミラノにあったこの書店で、1960年代に運営に関っていた著者が、そこで過ごした日々を丹念に描いた作品です。

話の中心は、書店で共に働いていた仲間たちのこと。パトロンを務めていた老女との思い出からはじまり、編集者を辞めてコルシア書店で働きはじめた仲間の経緯、同僚で友人の恋の話などその内容は実にさまざま。中でも私は、この書店の発起人である神父を描いた話が特に強く記憶に残っています。宗教や思想を超え、あらゆる人々が語り合えるサロンのような役目も果たしていたコルシア書店。ここでは、誰もが自分とは違った信念や好みを持つ人々を互いに認め合う様子が映し出されていますが、一方で、愛する人との死や別れ、階級差が根強く残っていたイタリアの社会構造など、大人が背負う人生の重みや責任も描かれています。鋭い人間描写と空気感を見事に捉えている著者の言葉によって、作品全体に、ろうそくが消える前のゆらめきのような哀愁が漂っているのです。それはまるで、昔を思い出しながらセピア色のアルバムを眺めているようで、「須賀マジック」と呼びたくなる強い引力を秘めています。彼女が創り出す世界をより深く知るためには、以前ここでも紹介した大竹昭子が書いた『須賀敦子のミラノ』という作品も併せて読んで頂きたいです。

音楽は今回、ドイツ出身のジャズピアニストであるユタ・ヒップの作品を選びました。1955年にニューヨークのライブハウスで演奏した曲を収録したこのアルバムは、数十年後に再評価され、現在は知る人ぞ知る名盤に。彼女のピアノは、黒人が持つ熱くねっとりとしたジャズフィーリングではなく、とてもクールでキレがあるものです。アップテンポの曲も秀逸ながら、バラードの美しさが際立ち、須賀敦子のエッセイにも通じる切ない雰囲気にぐっときます。美しい彼女の顔にすっと影が入ったジャケット写真にも感じるものがあり手にした一枚です。2作目もあるので、併せて聴いてみてください。

『コルシア書店の仲間たち』
須賀敦子
文春文庫
459円（税込）



『ヒッコリー・ハウスのユタ・ヒップ vol.1』
ユタ・ヒップ
EMIミュージック・ジャパン
1,100円（税込）
TOCJ-8546

■ 大井実さん
話題の一冊から普遍的な作品までを揃える福岡市内の書店『ブックスキューブリック』のオーナー。東区箱崎にある箱崎店では、オリジナルブレンドコーヒーやスウィーツ、ベーグルなどが楽しめます。
ブックスキューブリック
福岡市中央区赤坂2-1-12　ネオグランデ赤坂1階
☎092-711-1180　http://www.bookskubrick.jp